

第11回 東北大学
男女共同参画シンポジウム



未来の 男女共同参画 社会への 新たなる発信

女子学生入学
101年目を迎えた
東北大学から

平成26年

11.29 土

13:00~17:10

開催場所
東北大学片平キャンパス
片平さくらホール

主催
東北大学男女共同参画委員会

連絡先

東北大学男女共同参画推進センター
(東北大学総務企画部総務課)

TEL022-217-4811 FAX022-217-5906

ごあいさつ

第11回東北大学男女共同参画シンポジウムを開催するにあたり、ご挨拶させていただきます。

東北大学は「研究第一主義」「門戸開放」「実学尊重」を大学理念としております。この大学理念の一つである「門戸開放」において、大正2(1913)年に本学は当時の国立大学として初めて3人の女子学生に対し、理学部への入学を許可しました。このような輝かしい伝統と実績のもと、本学では平成13年に全学的組織として男女共同参画委員会を発足させ、平成14年9月に公表した「男女共同参画推進のための東北大学宣言」を指針として、全学をあげて男女共同参画社会の実現に向け鋭意取り組んでまいりました。そして昨年、初の女子学生の入学から100年という一つの節目を迎えることができました。

今回のシンポジウムは101年目の新たなスタートとして、さらに一步前に踏み出し、未来を見据えた男女共同参画社会の実現に向けて、「未来の男女共同参画社会への新たなる発信」というテーマで開催します。

本シンポジウムでは、ご来賓として、本学出身である奥山恵美子仙台市長、そして文部科学省から河村潤子生涯学習政策局長をお招きし、ご挨拶を頂戴することにしております。また同じく本学出身である森まさこ参議院議員に特別講演をお願いしております。日本における男女共同参画社会推進の第一線に立っておられる皆様に、大変お忙しい中お集まりいただくことができ、光栄に存じます。

また、今年度より設立した「澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞(澤柳記念賞)」の記念すべき第一回目の授賞式・受賞講演、将来を担う若手を中心としたパネルディスカッションなど、様々な観点から男女共同参画について考える機会を設けます。本シンポジウム全体を通じて、未来の男女共同参画社会に向けて学内外の皆様とともに考え、意見を交換する貴重な機会となれば幸いです。

今回のシンポジウムの成果が本学及び全国の大学のみならず、日本全体の男女共同参画社会の実現に大きく寄与できますことを祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。



東北大学 総長
里見 進

平成26年11月29日

プログラム

総合司会 東北大学男女共同参画委員会 広報・シンポジウム WG 座長 (多元物質科学研究所 教授) **永次 史**

開会挨拶 東北大学 総長 **里見 進** **13:00-13:10**

来賓挨拶 仙台市長 **奥山 恵美子 氏** **13:10-13:20**

文部科学省生涯学習政策局長 **河村 潤子 氏** **13:20-13:30**

第1部 司会 男女共同参画委員会 奨励制度 WG 座長 (医工学研究科 教授) **田中 真美** **13:30-14:45**

第1回 澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞(澤柳記念賞) 授賞式及び講演会

A 賞 (本賞) 明治大学法科大学院 教授 **辻村 みよ子 氏**

B 賞 (奨励賞) SA 輝友会 代表 **八木橋 奈央 氏**

東北大学男女共同参画推進センター愛称・ロゴマーク発表

男女共同参画推進センター長 **植木 俊哉**

東北大学における男女共同参画の取り組みについて

男女共同参画推進センター 副センター長 **米永 一郎**

..... 休憩 (10分)

第2部 **14:55-15:55**

特別講演 **女性が輝く社会を目指して**

前国務大臣 女性活力・子育て支援担当 参議院議員 **森 まさこ 氏**

..... 休憩 (5分)

第3部 **16:00-17:00**

パネルディスカッション **未来の豊かな社会の実現に向けた男女共同参画社会の在り方**

パネリスト 株式会社日本総合研究所 創発戦略センター **劉 磊 氏**

東京医科歯科大学 メディカルフェロー **塩飽 由香利 氏**

東北大学大学院生命科学研究所 博士課程後期2年 **阿部 彰子**

東北大学大学院法学研究科 博士課程後期3年 **樋口 恵佳**

コーディネーター 総長特別補佐 男女共同参画担当 (医学系研究科 教授) **大隅 典子**

講評・閉会挨拶 東北大学男女共同参画委員会 委員長 **植木 俊哉**

第1回澤柳政太郎記念 東北大学男女共同参画賞審査結果および講評



男女共同参画委員会
委員長
植木 俊哉

本学では、平成15年度より10年間にわたり、東北大学における男女共同参画を推進するため、「東北大学男女共同参画奨励賞（通称：沢柳賞）」として、教職員及び学生の皆さんの男女共同参画に関連する研究や活動を奨励してきました。

今年は、さらなる男女共同参画社会を目指し、沢柳賞を改め、「澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞（通称：澤柳記念賞）」を創設しました。この賞は、アカデミアにおける男女共同参画の先駆として、各分野で活躍し多大な貢献をなした方々を選考し顕彰する目的で設置しました。これまでの沢柳賞と異なり、学内だけでなく学外からも広く公募することで、より多くの方へ男女共同参画推進の理念を広げたいと考えています。

名称は、東北大学の理念である「門戸開放」の方針を打ち出し、全国に先駆けて女子学生に帝国大学の門戸を開く素地をつくった初代総長澤柳政太郎の功績にちなんでいます。澤柳記念賞は、本賞のほか、38歳以下の若手を奨励する目的で設置された奨励賞の2部門からなります。審査においては男女共同参画に関連する研究や活動の奨励、男女共同参画社会実現へ向けての積極的な提言や企画を重視しています。

厳正な審査により、以下のように受賞者が決まりましたので、審査の講評とあわせてご報告いたします。

第1回澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞

日本の男女共同参画社会の推進を牽引する 先導的活動について

明治大学法科大学院 教授 辻村 みよ子

[講 評]

同氏は憲法学・ジェンダー法学を代表する学者の一人として、東北大学における男女共同参画実現に向けての礎を築いた。さらには、21世紀COEプログラム、グローバルCOEプログラムの拠点リーダーや、内閣府男女共同参画会議・専門調査会委員等を歴任し、学内外に研究成果や政策提言を発信しながら日本の男女共同参画社会推進を牽引してきた。この功績は特に顕著なものであり、ここに顕彰する。

第1回澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画奨励賞

サイエンス・エンジェル修了生を中心とした 有志団体による男女共同参画への取り組み

エスエー きゆうかい
S A 輝友会

[講 評]

同団体は東北大学サイエンス・エンジェル（※）であった大学院修了生を中心とする自主的な活動団体として、修了後も研究分野や職種を超えて交流を続けている。自ら科学イベント等の企画を行うほか、現役学生のSA活動や進路に関するアドバイスを行うなど、ロールモデルとしても貴重な役割を果たしている。このような異なる分野を横断した理系の女子大学院生修了生による活動の今後の一層の活躍を期待し、奨励賞として顕彰する。

※サイエンス・エンジェル(SA)…東北大学の自然科学系女子大学院生が、女性研究者のロールモデルとしてセミナーやイベントに参加し、科学の魅力・研究のおもしろさを伝えている。

本賞

第1回「澤柳記念賞」受賞者

日本の男女共同参画社会の推進を牽引する 先導的活動について

明治大学法科大学院 教授 辻村 みよ子

講演要旨

法学部への女子学生の入学自体が珍しかった時代に憲法学研究者を志し、オランブ・ドゥ・グージュなどフランス革命期の人権・主権論研究を経て、1999年に国公立大学法学部初の女性憲法学教授として東北大学に赴任。男女共同参画委員会副委員長、ジェンダー法学会設立、21世紀COE/グローバルCOE拠点リーダーなどの経験をもとに日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会委員長やジェンダー法学会理事長、内閣府男女共同参画会議員等を歴任。こうした研究経歴や男女共同参画推進の取組みを踏まえて、ジェンダー法学の意義、日本の現状と課題、ポジティブ・アクション（積極的改善措置）の可能性などについて考える。とくに、フランスのパリテや韓国の50%クォータ制、女性国会議員比率が63.8%のルワンダ等との比較研究を通じて、政治分野における男女共同参画の意義と課題を明らかにし、学術分野のポジティブ・アクションの難しさや今後の課題について、理論的・比較政策的な分析が必要である。

実際、1999年の男女共同参画社会基本法や各大学等での男女共同参画の取組みにも拘らず、日本の女性研究者比率は14.4%(2013年度)で10年間の増加率はわずかに2.8%。このままでは30%に達するまでにさらに50年もかかってしまう。このためポジティブ・アクションが必要となるが、多様な手段の中で適切な措置を選択し、逆差別やスティグマ(劣性の烙印)を避けつつ社会全体のコンセンサスを得ながら進めることが不可欠となる。果たして、日本でポジティブ・アクションが有効な手段になりうるのか、社会全体の性別役割分業構造の改革なくして「女性の活躍」だけで十分なのか・など、論ずべき課題は多い。

主要著書

- 『フランス革命の憲法原理—近代憲法とジャコバン主義』 日本評論社、1989年
(第7回渋沢=クローデル賞受賞)
- 『人権の普遍性と歴史性』 創文社、1992年(1999年重版)
- 『ジェンダーと人権』 日本評論社、2008年
- 『憲法とジェンダー』 有斐閣、2009年(第2回昭和女子大学女性文化研究賞受賞)
- 『フランス憲法と現代立憲主義の挑戦』 有信堂、2010年
- 『比較憲法(新版)』 岩波書店、2011年
- 『ポジティブ・アクション—「法による平等」の技法』 岩波書店、2011年
- 『ジェンダー社会学の可能性(全4巻)』 辻村・大沢編集、岩波書店、2011年
- 『憲法から世界を診る—人権・平和・ジェンダー [講演録]』 法律文化社、2011年
- 『憲法(第4版)』 日本評論社、2012年
- 『概説 ジェンダーと法』 信山社、2013年
- 『人権をめぐる十五講—現代の難問に挑む』 岩波書店、2013年

他多数



略歴

- 1972年3月 一橋大学法学部法律学科卒業
 - 1975年3月 一橋大学大学院法学研究科修士課程修了
 - 1978年3月 一橋大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学(法学博士)
 - 1978年4月 一橋大学法学部助手(特別研究員)(~1980年3月)
 - 1982年4月 成城大学法学部専任講師
 - 1985年4月 成城大学法学部助教授
 - 1990年8月 パリ第2大学在外研究員(~1991年9月)
 - 1992年4月 成城大学法学部教授
 - 1999年2月 パリ第2大学比較法研究所招聘教授(日本法集中講義~2003年)
 - 1999年4月 東北大学法学部教授
 - 2000年4月 東北大学大学院法学研究科教授
 - 2003年~
 - 2013年3月 21世紀COE「男女共同参画社会の法と政策」・グローバルCOEプログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」拠点リーダー
 - 2008年~
 - 2013年3月 東北大学ディスティングイッシュト・プロフェッサー
 - 2013年4月 明治大学法務研究科(法科大学院)教授・ジェンダー法センター長
- (~現在に至る)

第1回「澤柳記念賞」受賞者

奨励賞

サイエンス・エンジェル修了生を中心とした有志団体による男女共同参画への取り組み

SA 輝友会 代表 八木橋 奈央

講演要旨

東北大学の自然科学系女子大学院生によって構成され、次世代を担う子どもたちに、科学の魅力を伝える活動を展開している「東北大学サイエンス・エンジェル (SA)」。

SA 輝友会はその OG が中心となって活動している団体です。「SA 活動で得たつながりを卒業後も大切にしていきたい」という思いから2009年に発足し、現在100名ほどが在籍しています。SAの研究分野は多岐にわたり、卒業生の多くが仙台を離れて就職します。そこで、OGだけではなく現役 SA や教職員スタッフも会員対象とすることで、住んでいる場所や在学時期、研究分野や職業を問わず、世代を超えた交流ができ、OGから現役生への理系女子のロールモデル提供の場としても機能しています。

SA 輝友会では情報共有のためメーリングリストを活用しています。このメーリングリストは会員であればだれでも配信・受信できます。交流会などのお知らせのほか、OGの仕事やプライベートをまとめたインタビューマガジンの配信、研究者採用情報、また、関東で行われる SA の科学イベント出展でのボランティア募集などに活用されています。

交流会では、キャリアや研究に関するトピックで、異なる研究分野について学び、卒業後のキャリアパスについて情報交換をしています。企画コアメンバーを OG と現役 SA が一緒に企画をすることで、縦のつながりを深めています。関東では支部会が発足し、就職してからもお互いに声を掛け合える環境の整備に努めています。



今後さらに、世代、分野の異なる理系大学院を修了した理系女子による SA 輝友会の活動を通じて、大学を離れてからの理系女子の可能性を全国の人々に示すことのできる団体となれたら、と願っています。



略歴

- 2010年3月 東北大学理学部生物学科卒業
- 2010年3月 東北大学大学院生命科学研究科生体システム生命科学専攻入学
- 2010年5月～2012年3月 東北大学サイエンス・エンジェルに任命
- 2012年3月 東北大学大学院生命科学研究科生体システム生命科学専攻修了(修士)
- 2012年4月 青森県の県立高校教諭として勤務



SA 輝友会が企画した情報交換会の様子 平成26年8月3日 貴方の未来を描こう～多様なキャリア・ライフパスと制度～

東北大学男女共同参画推進センター 愛称・ロゴマーク採用作品

男女共同参画推進センター

東北大学男女共同参画推進センターは、本学全体の男女共同参画活動を円滑に推進することを目的として平成26年4月に設置されました。本センターに愛着を持って頂き、男女共同参画へのより深い理解を促すために、センターについて分かりやすく表現した愛称・ロゴマークを募集したところ、全国各地から愛称126点、ロゴマーク30点の応募がありました。厳正なる審査の結果、下記のとおり最優秀賞、優秀賞を選定し表彰します。なお、今回選ばれた最優秀賞を元に、今後本センターのシンボルを作成し、看板、ポスターや各種製作物、ホームページ等に広く活用する予定です。

愛 称

最優秀賞

「TUMUG(ツムグ)」

静岡県
島田 宏哉 様(37歳)

●制作者のコメント

「Tohoku University(東北大学)」「Movement(運動、活動)」「United(団結、協力)」「Gender(ジェンダー、男女)」からなるアクロニウム語で、「紡ぐ」の音を表しています。東北大学から日本らしい男女共同参画社会を「紡ぐ」ムーブメントを起こすことを表現しました。

優秀賞

「ゆいこ〜と」

北海道
朝倉 修 様(45歳)

●制作者のコメント

「結ぶ」の「ゆい(結)」に、「つきそう」の「エスコート(escort)」や「中庭」の「コート(court)」をつなぎ、男女が共に平等な立場で結ばれるための支援の場、開放的な庭という思いを込めました。

優秀賞

「UniTI(ユニティ)」

宮城県
熊谷 明哉 様(33歳)

●制作者のコメント

男女共同参画という意味で Universal(例外なく、万人の)という言葉を使い、このセンターから東北にイノベーションを起こしてもらいたく思い、この名称を考えました。また、UniTIというのは、UniteやUni(Universalを含む)に音も近く、男女共に世界で活躍することも期待して、英語になっております。

ロゴマーク

最優秀賞



群馬県
小池 友基 様(29歳)

●制作者のコメント

杜の都仙台をイメージし、定禅寺通りのケヤキ並木の木をモチーフに男女共同参画社会をイメージしたロゴマーク。(杜の都仙台がイメージできる)男女共同が輪をつくり、躍動するイメージが男女共同参画推進をする取り組みを行う東北大学男女共同参画推進センターの目的が一目でイメージできます。)また4枚の葉が男女共同参画が推進され、幸せな社会が実現することを表現した四つ葉のクローバーもイメージでき、パステルカラーが優しく、親しみやすいデザインです。

優秀賞



千葉県
神保 米雄 様(65歳)

●制作者のコメント

東北大学男女共同参画推進センターの「T」と無限にふくらむ未来の輪を両手いっぱい広げ、積極的に男女共同参画する人々が結び合う力強さと互いを尊重し、年齢、性別等を問わず連携を進めていく輪でつながり継続・両立する様子を表現しました。

優秀賞



青森県
工藤 和久 様(49歳)

●制作者のコメント

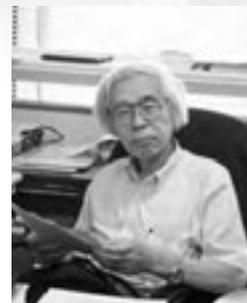
東北大学の「T」の文字を基調に共に手をたずさえ未来へ歩みだす男女の姿で東北大学男女共同参画推進センターを象徴的に表現しました。赤は太陽、青は大空で青葉区にある推進センターを爽やかにイメージしました。現代的で、シンプルで、親しみやすく、多くの人々に長く愛されるシンボルデザインです。また、縮小、単色、白黒にも耐えられ、いろいろと多用途な使い方が出来ます。

東北大学における 男女共同参画の取り組みについて

東北大学における男女共同参画の取り組みについて

東北大学では、男女共同参画の実現に向けた委員会活動とともに、女性研究者がキャリアパスの障害を乗り越えるための支援として、平成18-20年度に「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」（文部科学省科学技術振興調整費：女性研究者支援モデル育成）、平成21-25年度に「杜の都ジャンプアップ事業 for 2013」（文部科学省科学技術振興調整費：女性研究者養成システム改革加速事業、現科学技術人材育成費補助金）を実施してきた。平成26年度からはこの成果を踏まえ、男女共同参画推進センターを中心に、大学独自予算でこれらの支援事業を継承し、発展させている。

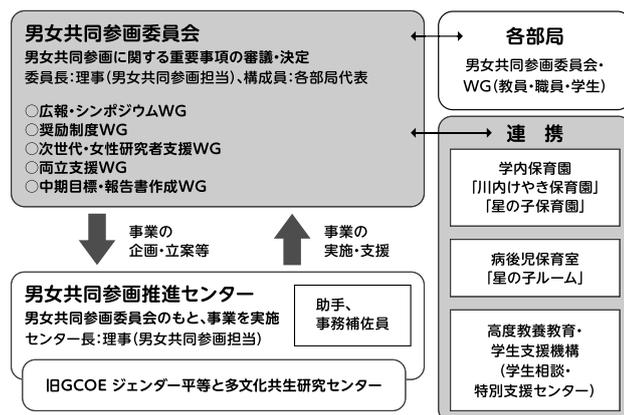
昨年（平成25年）は、当時の国立大学として初めて女子学生を受け入れてから100年という記念すべき年として、記念シンポジウム等の多岐にわたる事業を展開した。特に新たな一歩のための「男女共同参画推進のための行動指針」（本パンフレット裏表紙に掲載）が策定された。男女共同参画推進センターは、「行動指針」に基づき、1) 両立支援・環境整備、2) 女性リーダー育成、3) 次世代育成、4) 顕彰制度、5) 地域連携、6) 国際化対応、7) 支援推進体制、の7プログラムを実施し、今後一層の男女共同参画の推進を図る予定である。



男女共同参画委員会 副委員長
男女共同参画推進センター
副センター長
金属材料研究所 教授

米永 一郎

男女共同参画・女性研究者支援の体制



平成26年度男女共同参画・女性研究者支援事業

プログラム名	内容	対象部署	対象者
1 研究支援要員	研究支援要員雇用のために必要な人件費の補助(上限200万円)	自然科学系 部署	自然科学系の 女性教員
2 研究支援要員 (シェア型)	採択者同士で事務補佐員1名 (総務企画部総務課より派遣)をシェア		
3 ベビーシッター 利用料等補助	研究、講義、出張時のベビーシッター 利用料等の補助(上限10万円)	全部局	教員、技術職員、 PD、博士学生
4 スタートアップ 研究費	一年目100万円、二年目50万円の 研究費を支援	全部局	新規採用の 女性教員(助教以上)
5 研究スキルアップ 経費	会議・シンポジウム等の旅費支援 開催地が海外:上限40万円、国内:上限15万円	全部局	女性教員 (准教授、講師、助教)
6 サイエンス・ エンジェル	高校出張セミナー、オープンキャンパス、 科学イベント企画・実施	自然科学系 研究科	自然科学系の 大学院女子学生
7 女子学生 海外渡航支援	海外で開催される会議・シンポジウム等の 旅費支援(上限15万円)	全研究科	大学院女子学生

※平成26年度の募集は締め切りました。

特別講演



略歴

生年月日 昭和39年8月22日
出身地 福島県
参議院議員 福島選挙区 当選2回
昭和63年 東北大学法学部卒業
平成6年 結婚
平成7年 弁護士登録
平成10年 森まさこ法律事務所
設立
第一子出産
平成11年
～12年 米国ニューヨーク大
学法科大学院客員
研究員
平成12年 国連CSW(女性の地
位委員会)日弁連代表
第二子出産
平成14年
平成14年
～16年 米国ワシントンDC
在住
平成17年 金融庁総務企画局課
長補佐(貸金業法)
平成18年 金融庁検査局金融証
券検査官(証券・金融)
平成19年 第21回参議院議員
選挙当選
平成21年 自民党 法務部会長
平成22年 自民党 副幹事長
平成23年 参議院 法務委員会理
事、東日本大震災復興
特別委員会理事
平成24年 参議院 行政監視委
員長
平成24年 第二次安倍内閣で女
性活力・子育て支援担
当大臣、内閣府特命担
当大臣(消費者及び食
品安全、少子化対策、
男女共同参画)
※平成26年9月まで
平成25年 第23回参議院議員
選挙当選
平成26年 自民党女性活躍推進
本部 副本部長

女性が輝く社会を目指して

前国務大臣 女性活力・子育て支援担当 参議院議員 森 まさこ 氏

講演要旨

1 安倍内閣における取り組み

女性の活躍は、アベノミクス「3本の矢」の3番目の成長戦略の中核と位置づけられ、日本では、女性の労働力が最大の潜在力となっている。しかし、現在の日本社会には、女性の昇進や出産後の就業継続を阻む巨大な岩盤が存在する。女性が輝く社会の実現に向けて、この岩盤に穴をあけていかなければならない。

女性の活躍の機会を広げるために、政府は、2020年までに指導的地位における女性の割合を30%にするという数値目標を掲げている。これは、政府や民間企業において管理職の30%が女性でなければならないことを意味している。

安倍内閣では、このような数値目標の下、様々な政策に取り組んできた。具体的な取り組みについては、講演で詳しく紹介の予定である。

(例)

- ① 企業における女性役員・管理職数の増加
- ② 子育て期(25～44歳)の女性の就業率の上昇
- ③ 待機児童の減少
- ④ 育児休業給付の充実
- ⑤ 女性の活躍「見える化」サイトの開設 等

上記の他、育児・家事支援環境の拡充、企業等における女性の登用を促進するための環境整備、働き方に中立的な税制・社会保障制度等への見直しなど様々な取り組みを進めている。

2 体験談

二人目の子どもが生まれた後、私は、専業主婦としてワシントンDCに住んでいた。アメリカは、女性が子育てをするうえで、本当に素晴らしい環境だった。ベビーカークの行く先に階段があれば皆が手伝ってくれたし、地下鉄では進んで席を譲ってくれた。ところが、日本では、「じゃまだ。」と言われ、満員電車のせいで子どもを勤務先の事業所内保育所に連れて行くこともできなかった。人々の意識も変える必要がある。私は、必要な施策を実行することで、人々の意識を変え、女性が十分に活躍できる環境を作っていきたい。

近年の主な活動

<講演実績>

- 2014年9月11日 エルサルバドルのビニャット大臣とのディスカッション／外国人記者クラブ
2014年9月25日 「子育てと男女共同参画」／福島工業高等専門学校
2014年10月3日 「女性が輝く社会と復興」／福島県立医科大学
2014年10月4日 「私の子育て奮闘 ワークライフバランス」／ふくしま震災孤児・遺児をみまもる会
2014年10月8日 「選択する未来」シンポジウム・パネリスト／内閣府
2014年10月20日 「女性の活躍促進の加速化のために～大阪に期待すること～」
／大阪市男女共同参画のまち創生協会 他
2014年10月24日 IBA（国際法曹協会）の年次総会にてキーノートスピーチ
「Creating “A Society in which Women Shine”」／東京国際フォーラム
2014年10月25日 「少子高齢化社会のこれからの展望」／国際ソロプチミスト福島

他多数

<インタビュー>

- 2013年9月5日 フィガロ（フランス）「Le Japon recrute des Françaises pour ses conseils d'administration」
2014年3月1日 Japan News 「Unseen 'glass stones' litter women's path」
2014年4月号 日経 WOMAN 「家族が私に元気をくれる」森まさこ × 中山秀征（タレント）× 東尾理子（プロゴルファー）
2014年4月15日 Bloomberg.co.jp 「霞ヶ関のウーマノミクス加速へ」
2014年8月16日 毎日新聞 女子大生誕生の日「これからの日本をリードする女性の力」座談会

他多数

<その他の活動>

- 2013年1月 女性の活躍見える化サイトを発足
2013年2月
～6月 「若者・女性活躍推進フォーラム」を政府主催で全国にて開催
2013年4月 経済3団体に働きかけ
2013年5月 男女共同参画の観点からの防災・復興活動
2013年6月 2014年の安倍内閣の成長戦略の中核に「女性活躍」を据える
2013年11月 配偶者同行休業法を成立
2014年2月 内閣官房に「女性が輝く社会づくりチーム」を発足
2014年3月
～9月 「輝く女性応援会議」を政府主催で全国各地にて開催
2014年5月 女性の活躍を加速する男性リーダーの会を発足
2014年8月 奥山仙台市長と会談（「女性活躍政策について」）
2014年12月3日（予定）の国連世界防災会議に向けた女性会議（福島）の開催を決定
2014年9月 WAW（World Assembly for Women in Tokyo）を企画、前大臣として出席

他多数

パネルディスカッション パネリスト紹介



劉 磊 氏

株式会社日本総合研究所 創発戦略センター

所 属 株式会社日本総合研究所 創発戦略センター

経 歴

- 2004年3月 東北大学 工学部 機械知能工学科卒業
- 2004年4月 東北大学大学院工学研究科 博士課程に進学
次世代血流力学解析システムの研究開発に従事
- 2009年3月 東北大学大学院工学研究科 バイオロボティクス専攻 博士後期課程修了
博士(工学)
- 2009年4月 GEヘルスケア・ジャパン株式会社に入社 外資系医療機器メーカーの開発
エンジニアとして画像診断装置の研究開発、次世代医療検査技術に関する
共同研究案件の立案・展開に従事 在職中に二児の父となり、「イクメン」
の道をはじめ
- 2014年6月 株式会社日本総合研究に転職 創発戦略センター所属 次世代社会インフ
ラ案件(高齢化社会、地域交通、ビッグデータ活用)、次世代高度人材育成プ
ログラムなどのプロジェクトに参加 週末は家族とイン&アウトドアのア
クティビティを楽しむ 趣味はキッチンに立ち、妻、子供と一緒に「食育」
を楽しむこと



塩飽 由香利 氏

東京医科歯科大学 メディカルフェロー

所 属 東京医科歯科大学 メディカルフェロー

経 歴

- 2007年3月 東北大学歯学部歯学科 卒業
- 2007年4月 東北大学病院附属歯科医療センター 研修医
- 2008年4月 東北大学大学院歯学研究科 入学
- 2008年5月 東北大学サイエンス・エンジェルに任命 小中高校生の身近なロールモデ
ルとなり、セミナー等を通じて科学の魅力を伝える活動を開始
- 2011年4月 日本学術振興会 特別研究員(DC2) 採用
- 2012年3月 東北大学大学院歯学研究科 修了
- 2012年4月 Harvard School of Dental Medicine 博士研究員
- 2014年4月 東京医科歯科大学 メディカルフェロー 現在に至る



阿部 彰子

東北大学大学院 生命科学研究所 博士課程後期2年

所 属 東北大学大学院生命科学研究所 博士課程後期2年
経 歴

- 2011年3月 宇都宮大学農学部生物生産科学科卒業
- 2011年4月 東北大学大学院生命科学研究所分子生命科学専攻 博士前期2年の課程入学
- 2011年5月 東北大学サイエンス・エンジェルに任命 小中高校生の身近なロールモデルとなり、セミナー等を通じて科学の魅力を伝える活動を開始
- 2013年3月 東北大学大学院生命科学研究所分子生命科学専攻博士前期2年の課程修了
- 2013年4月 東北大学大学院生命科学研究所分子生命科学専攻博士後期3年の課程入学
- 2013年5月 世界トップクラス研究リーダー養成セミナー「未来をつくる学生たちへ～ノルウェーからのメッセージ～」におけるトークイベントに出席
- 2014年3月 内閣府男女共同参画局による「輝く女性応援会議」に出席



樋口 恵佳

東北大学大学院 法学研究科 博士課程後期3年

所 属 東北大学大学院法学研究科 博士課程後期3年

法政理論研究専攻(研究専門分野:国際法)、日本学術振興会特別研究員(DC)

経 歴

- 2010年3月 東北大学法学部 法学科卒業
- 2010年4月 東北大学大学院 法学研究科(法政理論研究専攻)博士課程前期二年の課程入学
- 2010年4月 (修士課程在学中) グローバル COE プログラム リサーチ・アシスタント
- 2012年3月 東北大学大学院 法学研究科(法政理論研究専攻)博士課程前期二年の課程卒業
- 2012年4月 東北大学大学院 法学研究科(法政理論研究専攻)博士課程後期三年の課程入学 また、2014年4月～ 日本学術振興会特別研究員(DC)

コーディネーター紹介



大隅 典子

総長特別補佐 男女共同参画担当(医学系研究科 教授)

所 属 東北大学総長特別補佐(男女共同参画担当)

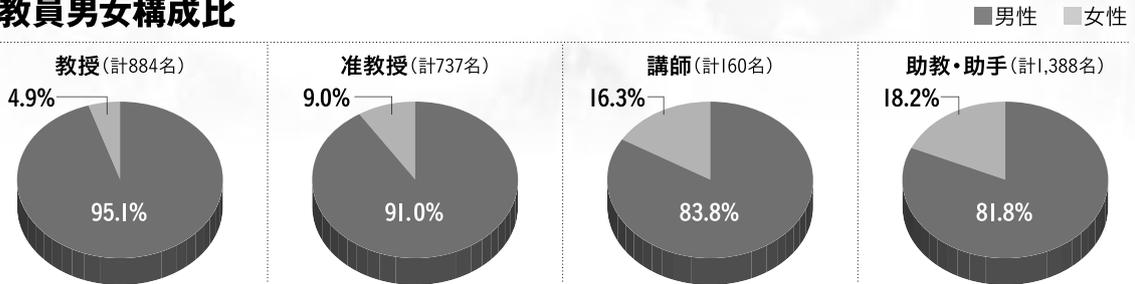
東北大学大学院医学系研究科 附属創生応用医学研究センター
発生発達神経科学分野 教授

専門領域 発生生物学、分子神経科学

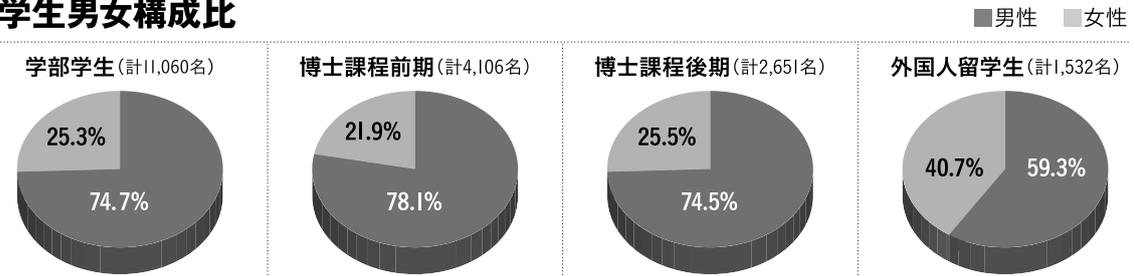
- 著 書**
- 『神経堤細胞』(共著、東京大学出版会、1997年)
 - 『エッセンシャル発生生物学 改訂第2版』(訳書、羊土社、2007年)
 - 『心を生みだす遺伝子』(訳書、岩波現代文庫、2010年)
 - 『脳科学ライブラリー2 脳の発生・発達 神経発生学入門』(朝倉書店、2010年)
 - 『なぜ理系に進む女性は少ないのか? トップ研究者による15の論争』(訳書、西村書店、2013年)
- 他

東北大学における男女構成比と推移 平成26年5月1日現在

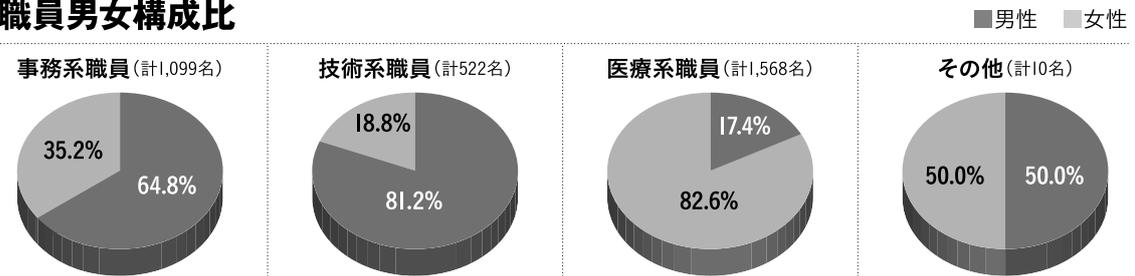
教員男女構成比



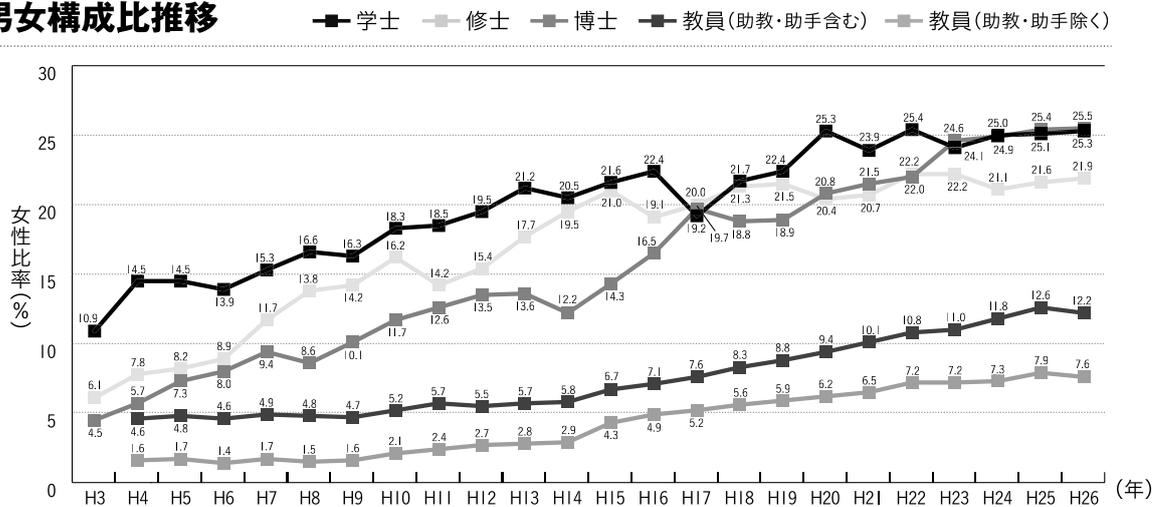
学生男女構成比



職員男女構成比



男女構成比推移



東北大学における 男女共同参画推進のための行動指針

東北大学は、1913年に日本で初めて女子学生3名の入学を許可した。その3名はやがて女性初の学士になるなど、本学は女性研究者育成の歴史に大きな足跡を残している。そのような歴史の中、戦前にあっては学問を志す全国の女性が「学都仙台」に集い、本学は帝国大学の中で最も多くの女子学生を輩出した。

そして、2001年に全国に先駆けて東北大学男女共同参画委員会を発足させ、「男女共同参画のための東北大学宣言」（2002年）のもと、全学的な男女共同参画の推進に向けた活動として、学内の環境整備や意識改革、学内外広報等に努めてきた。

また、2003年度に21世紀COE「男女共同参画社会の法と政策」が、2008年度にはその成果を発展させたグローバルCOE「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」が採択された。これらは、男女共同参画とダイバーシティ研究・教育のためのプログラムであり、研究・教育における男女共同参画の取り組みも全国に先駆けて進めている。

自然科学系分野では、2006年度から「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」を展開し、環境整備や次世代育成等に取り組むとともに、2009年度からは「杜の都ジャンプアップ事業 for 2013」により、理工農学分野の女性研究者の採用を促進し、そのリーダー育成を推進している。

このように、男女共同参画の包括的推進（理論整備・活動支援）において、我が国をリードする活動を展開している本学は、女子学生入学100年の歴史と背景をもとに、建学以来の理念の一つである「門戸開放」を継承する男女共同参画について、今後10年間の行動指針として以下の7項目を策定する。

■両立支援・環境整備

本学構成員が、年齢性別等を問わず、仕事や学業と生活との両立を図ることができるように、意識の醸成に努め、子育て支援のための学内施設の充実や介護支援を含めた制度等の環境整備と周知を進める。

■女性リーダー育成

アカデミアにおける男女共同参画の推進に向けて、女性研究者を積極的に採用・養成し、さらに学内および学会・社会のリーダーとして飛躍させるための支援・登用制度を整備する。

■次世代育成

将来性豊かな次世代女性研究者を輩出するために、サイエンス・エンジェル（SA）活動を継続・発展することなどにより、学部生・大学院生を対象とした研究者使命の意識啓発と醸成に努め、さらに実体験を通して育成する施策を推進する。

■顕彰制度

アカデミアにおける男女共同参画の先駆として、各分野で活躍し多大な貢献をなした方々を選考し顕彰するため、新たな「東北大学男女共同参画賞」を創設する。

■地域連携

東北地方の中心に位置する大学として、東北地方の多くの大学、行政機関等との連携を進め、地域発展や震災復興事業等における男女共同参画を推進する。

■国際化対応

ワールドクラスへの飛躍に向けて、グローバルな研究・教育体制に相応しい、外国人研究者・留学生を対象とした様々な両立支援策を講じ、国際的観点に基づいて学内の男女共同参画を推進する。

■支援推進体制

上記の男女共同参画活動を円滑に推進するために、男女共同参画担当理事（若しくは副学長）と総長特別補佐（男女共同参画担当）を置き、さらに「男女共同参画推進センター」などの恒常的支援体制を整備する。

平成25年8月8日